

# 中高一貫だより

＜編集・発行＞  
えりも地区連携型  
中高一貫教育  
推進委員会事務局

## 中高一貫の特色を生かした教育活動の指針

中高一貫教育推進委員長（北海道えりも高等学校長） 村 木 宗 徳

令和4年3月1日（火）、30名の卒業生が本校を巣立っていきました。国公立大学への進学者をはじめとして、30名全員が進学や就職などの進路目標を実現し、4月からは北海道内外で新しい生活を始めます。

また、4月には新入生を迎えて新しい年度が始まりますが、令和4年度からは新しい学習指導要領が年次進行で施行されます。およそ10年ごとに改訂される学習指導要領ですが、今回は、子どもたちを取り巻く社会状況の変化や学校が抱える複雑化・困難化した課題等を踏まえ、「社会に開かれた教育課程の実現」や「カリキュラム・マネジメントの推進」、育成を目指す資質・能力を明確化した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善などの基本方針に基づいた改訂となっています。

このことを踏まえ、本校では入学から卒業までの教育活動の指針として、次のとおりスクールポリシーを策定しました。今後は中学校のみならず、小学校との連携も一層充実し、教育の質の向上に努めてまいります。



### 〈育成を目指す資質・能力に関する指針〉

- ・社会的に自立した人間として広い視野を持ち、主体的に学びに向かい、自ら知識を深めて人生を切り拓く力
- ・よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働し自ら問題を発見・解決し、新たな価値を創造する力

### 〈教育課程の編成及び実施に関する方針〉

- ・生徒の進路目標や興味・関心に対応した多様な選択科目と、一人一人の生徒の学びの質を保障する魅力ある授業づくり
- ・地域社会と教育目標を共有するとともに、地域の教育資源を活用した探究学習の推進

### 〈入学者の受け入れに関する方針〉

- ・「えりもの子はえりもで育てる」の理念に基づいた、中高一貫の特色を生かした学びの連続性の重視

## 学力向上に向けた各教科の取組

えりも中学校とえりも高等学校間で行われている中高一貫教育推進事業では、「えりもの子」たちの学力向上を中心として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っております。今年度もコロナ禍で実施が心配されましたが、中学校と高校の教員間で教科ごとに連携し、様々な取組を行いました。紙面の都合で一部とはなりますが、その取組の概要を紹介いたします。

### 【国語部会】

兼務で、中学1年生の授業に高校教員がTTとして入り、学びのサポートを行いました。また、今年度も高校教員が中学3年生を対象に、高校入試対策として習熟度別に3展開で現代文分野の授業を行いました。

### 【社会科・地歴公民科部会】

今年度は高校教員が中学生にアンケートを実施し、学習状況の把握に努めました。また、オンライン上で直接課題提示等を行い、1人1台端末の授業に対応する仕組みを構築し始めました。

### 【数学部会】

兼務で高校教員が中学2年生の授業を担当しました。また、乗り入れ授業では、中高数学科教諭全員で中学3年生に対し、進路・学力に応じて5展開の授業を行いました。えりも高校進学者の学力状況を早期に知ることができ、入学後の授業の参考となりました。

### 【理科部会】

小テストの実施や考査結果の分析など教員同士の情報共有に力を入れ、継続的な指導を考えています。来年度も引き続き中高一貫で連携を取りながら乗り入れ授業や実験などをしていきたいと考えています。

### 【英語部会】

今年度も、中高合同での英語検定をえりも高校を会場として3回実施しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中学3年生への2次試験対策の指導は1回しか行うことができませんでした。次年度も引き続き、英検の合格に向けてサポートができるようにしていきたいと思っております。



(9月～10月中高合同体育授業)



(2月乗り入れ授業(数学))

### 【保健体育部会】

中学1年生から高校3年生まで体力テストを実施し、結果を分析することで、体力向上への意識を高めることができました。また、中学3年生が高校に来て、中高生合同の体育授業(ソフトボールとサッカー)を実施し、高校3年生が中心となって指導・学習する活動を展開することができました。教え学び合う活動は、中高生ともに得るものが大きく、生徒一人一人の成長を感じられました。

## えり中3学年 **中高連携総合ありがとうございました。**

今年度は、延期やオンラインでの実施になるなどしましたが、無事、すべての学習を終えることができました。中学生にとっては、何といたっても、えりも高校での総合的な学習の時間を通して、さまざまな体験ができたり、自分の将来を考えたりできるのが中高連携の強みだと感じます。一年間ありがとうございました。

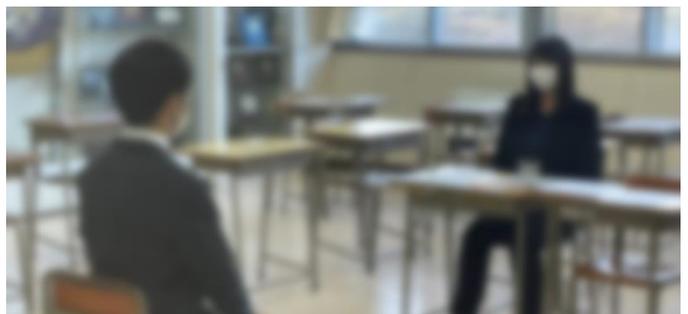
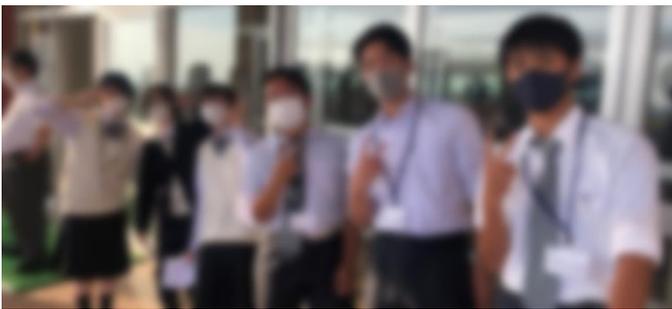
### **9月28日 えりも高校体験入学**

えり高3年生に、教科の授業や校舎内の案内をしていただきました。



### **11月12日 中学生面談**

進路に向けた面接練習も兼ねて、えり高の先生たちに本格的な面接をしていただきました。



### **2月25日 進路講話**

今年度は動画配信でしたが、私語もなく、真剣にお話を聞きました。毎年、誰が話してくれるのか楽しみです。3年後は君たちの番だ！

### **10月13日 進路別ガイダンス**

高校生のみなさんと一緒に、各分野の講義、体験に参加しました。



# 中高一貫6年間の成果

北海道えりも高等学校進路指導部長 山上 智史

今年度卒業した生徒の進路概況は下記の表のとおりです。今年度は、推薦入試及び一般入試で国公立大学に3名が合格しました。

多くの生徒が、学校推薦型選抜（旧推薦入試）や総合型選抜（旧A0入試）を利用して受験しましたが、志望校に合格した生徒のほとんどは、各種検定の上位級取得に励むほか、面接練習や志望理由書の作成、小論文を書く練習を何度も行い、本番の試験に臨んでいました。国公立大学に一般受験でチャレンジした生徒は、共通テスト受験後も2次試験に向けてしっかりと対策をしていました。合格した生徒の共通点は、それぞれが目標を持ち、受験までのスケジュール管理や学習のPDCAサイクルを確立して取り組んだことです。自分に合った進学先を決めるためには、早期からオープンキャンパスや進学相談会などに積極的に参加し、学部・学科研究をすることが重要です。

また、昨年度から大学入試の内容が変更になり、受験生にプレゼンテーションや口頭試問を課す大学もありました。そのためには、探究活動などを通して、大学で学びたい分野の知識を深めておくことも重要です。

就職希望の生徒は、企業研究のほかに、履歴書の作成や面接練習に励み、全員が志望する企業から内定を得ることができました。詳しい進路状況は、本校のホームページをご覧ください。

国公立大	私立大	私立短大	専門学校	公務員	民間就職	各種学校	合計
3名	7名	1名	9名	4名	4名	2名	30名

(令和4年3月24日現在)

## 合格体験記《今年も三年生は第一希望に数多く合格できました!》

### 大学（小樽商科大学 合格）

高校3年間で、検定上位級の取得のほかに、学習ボランティアや地域探究型学習への参加など様々なことに挑戦することにより、主体性が身に付きました。

### 大学（公立はこだて未来大学 合格）

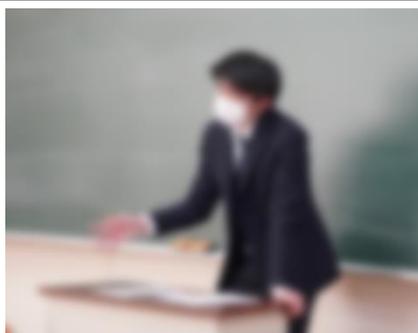
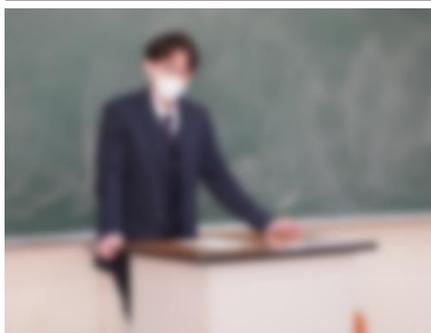
学力試験の対策として、過去問や似たような問題に取り組みました。分からない部分は、先生に何度も質問することで解けるようになっていきました。

### 公務員（北海道職員 一般行政B 内定）

筆記試験の知識問題の対策として、単語帳を活用して勉強をしました。合格に向けて、毎日30分でもよいので、家庭学習を習慣化させることが重要です。

### 民間就職（株式会社日本郵便北海道支社 内定）

この会社を選んだ理由は、地域の役に立てる仕事に就きたいと思ったからです。就職に向けた勉強はとても必要です。



(3月8日(火) 3年生の話を聞く会)